

【兵庫県小野市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末をはじめとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

「令和の日本型学校教育」の構築を目指した中央教育審議会の答申（令和3年1月）及びそれに続く政府の議論等においては、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につながることを求められている。それらを踏まえて次のように取り組み、1人1人の「生きる力」を育む特色ある教育の実現を目指す。

【個別最適な学び】

- ・教師が支援の必要な子どもにより重点的な指導を行うことで効果的な指導を行う。
- ・子ども一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間の柔軟な提供・設定を行う。
- ・子どもの興味・関心・キャリア形成の方向性に応じ、探究において課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現を行う。
- ・教師が子ども一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子ども自身の学習が最適なものとなるよう自ら調整する。

【協働的な学び】

- ・探究的な学習や体験活動などを通じ、子ども同士で、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働しながら、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成する。

2. GIGA 第1期の総括

【学校全体の ICT 環境の整備】

小野市では、令和2年度に全教室にネットワーク環境を整備し、児童生徒に一人一台の端末を配布した。また、持ち帰りにおけるセキュリティ環境も整え、学校外からのアクセスも安全に行える環境を整え、非常時には、端末の持ち帰りが100%可能な環境を整備した。

【学校教育への ICT 活用】

小野市では、教員の職員研修を実施するとともに、授業における効果的な ICT の活用を研究し、1教員1授業に取り組み、タブレット端末を活用した授業力を向上させた。また、情報の収集・理解・整理・発信・共有及び個別の学びのツールとして1人1台端末の日常的な利活用を図るとともに、様々な場面で活用することで、子どもの学習意欲の向上に努めた。

しかし、ICT の活用実態については、学校間で差が生じていることが課題となっている。市内情報担当者会を活性化し、OJT や情報共有を図るなど、課題解決に努めていく。

3. 1人1台端末の利活用方策

十分な予備機を含め、端末を適切に更新し、1人1台端末環境を引き続き維持することを前提とし、以下のように利活用していく。

(1) 「1人1台端末の積極的活用」

研修や情報担当教職員内での情報共有を活性化していくことで、各学校の端末活用に関する課題を解決し、どの学校においても積極的に端末を活用できる環境を作る。

(2) 「個別最適・協働的な学びの充実」

これまでも行ってきた学習支援ソフトを活用した授業に加え、学習履歴（スタディ・ログ）など教育データを活用した個別最適な学びを充実させる。また、「調べる」「発表・表現する」「やりとりする」という授業場面に応じた端末の活用を進め、協働的な学びの充実を図る。

(3) 「学びの保障」

GIGA 第2期においても、日常の授業で端末を効果的に活用することはもちろんのこと、不登校や特別支援、日本語指導など、様々な困難を抱える児童生徒に対する支援として、多様な場面で ICT を活用できるか調査研究を行っていく。